

| | |
|-----------------------------------|----------------|
| 高齢者の生涯学習の意義 ー 私達のこれからの学びと地域活動ー | 令和 2年 6月13日(土) |
| | オンライン：動画配信 |

・兵庫教育大学教職大学院
 ゲストティーチャー（元教授）
 [学校経営・危機管理・社会教育・生涯学習]
 ・(公財)兵庫県生きがい創造協会
 理事、生涯学習アドバイザー 廣岡 徹

2 高齢者像の見直し

・ 高齢者の学習支援事業の位置づけと性格の基本的な見直しが迫られつつある。
 ・ 高齢期が人生の他の時期に匹敵するほど長くなり、かつ支援対象としても巨大化し一大勢力を形成するに至った。
 安田女子大学：池田秀男「少子高齢化社会の生涯学習を考える」（平成16年）

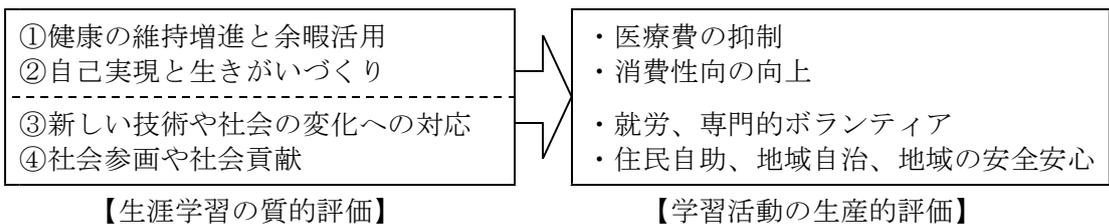
- (1) 高齢期の長期化ー退職年齢の引き上げ
- (2) 社会的集団としての巨大化
- (3) 社会的弱者から地域社会維持の構成員へー社会参画・地域貢献へ

(4) 学びの質の変化

積極的余暇（学習・研究、趣味・娯楽、社会活動等）を増やすことでが老化を防ぎ、生きがいを見つけることに繋がる。
 山口短期大学：上原泰子・中村綱幸「生涯学習への提案ー高齢者に対するー」（平成11年）

高齢者は、新たな学習の機会を通して、自身を高めるとともに、社会参画、地域貢献にかかわることが期待されている。
 超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会（平成24年）

(5) 生涯学習の4つの視点



3 高齢者の学びに関する課題（平成21年内閣府「生涯学習に関する世論調査」）

(1) 学習活動への参加状況

| | | |
|---------------|-------|--------------------|
| 民間の学習活動 | 7.6% | （21.8%） 学習者の固定化 |
| 公共施設や大学の公開講座等 | 4.8 | |
| 公民館の学習活動 | 4.2 | |
| 通信教育等 | 4.0 | |
| その他 | 1.2 | |
| 参加したいが参加していない | 40.2% | 行政の課題ー動機付け |
| 参加したくない | 42.3 | |

(2) 地域活動への参加の状況（平成26年東京大学高齢社会総合研究機構）

| | | |
|--------------|-------|-------------------------|
| 地域活動に参加している | 21.6% | （参加の内容、質） 行政の課題－動機付け |
| 将来的には参加したい | 27.9 | |
| 今後も参加する意思はない | 50.5 | |

(3) 地域活動を妨げる要因

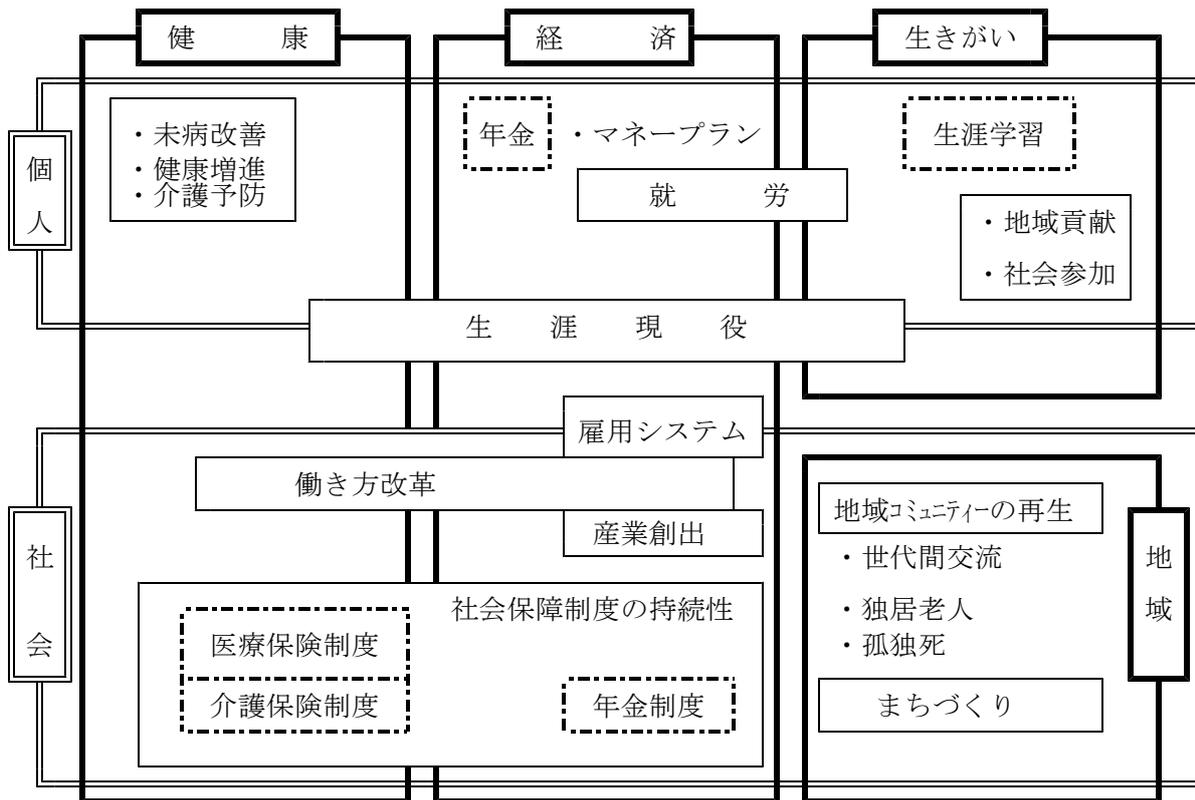
| | | |
|---------|-------|------------|
| 時間がない | 35.9% | （理由の検証） |
| 興味がない | 15.1 | |
| きっかけがない | 14.2 | 行政の課題－動機付け |
| 情報がない | 11.1 | |

4 「人生100歳時代」の課題（神奈川県政策研究・大学連携センター）

- (1) 「個人と社会」の関係
- (2) 「人生で大事なもの」の考え方－高齢者にとって

健康で、適度な経済的基盤があって、意欲と時間がある人生をどう考えるか？

(3) 「健康・経済・生きがい」の関係



5 時間の過ごし方

(1) 中心となる要素

| |
|-------------|
| 遊ぶ 学ぶ 働く 地域 |
|-------------|

(2) ライフステージに応じた要素

① 人生 70 年時代のイメージ (昭和 45 年頃：平均寿命 69.84 歳)

| | |
|-----|---|
| 若年期 | 「 <u>学び</u> 」(小・中・高等学校・大学) 中心 ----- 「遊び」(スポーツ・趣味等)：「地域」(子ども会・運動クラブ) |
| 壮年期 | 「 <u>働く</u> 」(仕事・家事) 中心 ----- 「遊び」(スポーツ・趣味等)：「地域」(自治会・祭事等) |
| 高齢期 | 「 <u>学ぶ</u> 」(高齢者大学等)「 <u>遊ぶ</u> 」(スポーツ・趣味等) ----- 「地域」：「働く」 |

② 人生 100 年時代のイメージ

| | |
|-----|--|
| 若年期 | 「 <u>学び</u> 」 中心 (小・中・高等学校・大学) ----- 「遊び」(スポーツ・趣味等)：「地域」(子ども会・ボランティア) |
| 壮年期 | 「 <u>働く</u> 」 中心 (仕事・家事)：地域 (自治会・祭事等・ボランティア) ----- 「学び」：「遊び」(スポーツ・趣味等) |
| 高齢期 | 「学ぶ」：「遊ぶ」：「働く」：「地域」のバランス |

(3) 人生 100 年時代の社会環境整備

① 「学ぶ」ことと「働く」ことの関係

| | |
|------|--------------------|
| 現役世代 | ステップアップ、転職等に繋がる講座 |
| 高齢世代 | 新たな就労に繋がる学びのルートの強化 |

② 「学ぶ」ことと「地域」との関係

| | |
|------|---------------------------|
| 現役世代 | 学びが社会活動のきっかけに |
| 高齢世代 | 学び直しから、新たな仲間と共に地域・社会活動に参加 |

③ 「働く」ことと「地域」との関係

| | |
|------|----------------------------------|
| 現役世代 | 現役の働く余力を地域活動・社会活動 (プロボノ etc) に充当 |
| 高齢世代 | (バランス良く働くことと地域活動による充実) |

・プロボノ (ラテン語 **probono publico**) 職務上の専門知識や技術を活かす奉仕活動

④ 高齢者における「働く」ことの関係ー重要

| | |
|------|-----------------------------|
| 現役世代 | 現役の定年延長、雇用年齢の引き上げによる経済基盤の担保 |
| 高齢世代 | 高齢者雇用、とりわけホワイトカラー層の雇用機会の拡充 |

⑤ 「地域」と社会貢献との関係

| | |
|----------|--|
| 二つのアプローチ | <ul style="list-style-type: none"> ┌ (従 来) 地域コミュニティの直面する課題解決の視点 └ (新たに) 個々人の「時間」の充実を図る視点 |
|----------|--|

生涯学習の変化

「学び」を主とした生涯学習から「仕事」や「地域貢献・社会活動」につながる生涯学習